

「求む新鮮力―道内大学アメフト部の新勸作戦」⑩札幌大

アメフトの灯を消さない

札幌市豊平区西岡の札幌大学の陸上グラウンド。かつての北海道唯一のアメリカンフットボールのフィールドは、常設していたゴールポストが姿を消し、隣接するサークル棟2階の札幌大アメリカンフットボール部の部室も、使い込まれた防具やヘルメットが放置され人声は無い。ただ一人の部員の小金龍東主将（4年）は「とうとう一人だけになった。新生をぜひ勧誘して、何としても部の歴史を守りたい」と決意した。

札幌大アメリカンフットボール部の創部は今から51年前の1971年。日本大OBの高橋清一氏（故人）の熱烈指導で道学生選手権を第1回（1975年）から4連覇し、甲子園ボウルの挑戦権を争う関東大学選手権（当時）に北海道から初めて挑んだのも札幌大だった。草創期の北海道フットボールの牽引役を務めた。道学生選手権は83年から復活の3連覇、94年には8度目の優勝を飾っている。

その名門が、大学生のスポーツ離れの影響などで近年は部員が減少。成績も低迷が続く。2019年は1部最下位で、入れ替え戦も室蘭工業大に敗れて9年ぶりの2部降格。20、21年は部員不足で同選手権を棄権した。小金主将は「高校時代はワンダーフォーゲル部。部員が足りなくて1年生でいきなり試合に出たが、2、3年生の時は棄権。去年は社会人との交流戦が唯一の実戦だった」と言う。新入部員は19年に選手5人が入ったが、小金主将以外は退部。コロナ禍に見舞われた20年は3人が入部したが、去年までに全員が部を去った。21年は入部ゼロだった。

部存続をかける今年の新人勧誘作戦。心配するOBの知恵も借りながら、まずはアメフト部の存在をアピールすることにした。新型コロナウイルス対策のため新生へのビラ配布が禁止されたため、ポスターを大学内に張り出し、ツイッターの情報発信に力を入れる。「1号館の談話室にチラシがあります」「自治会オリエンテーションでアメフト部の紹介をします」「グラウンドの雪が解けました。練習を再開できます」「アメフトを始めるのに遅いということはありません」など、小金主将が毎日メッセージを書き込んだ。

懸命のアピールだが、残念ながら4月中の新生の反応は低調。小金主将は「最近の学生はツイッターを見ないのかな」と首をひねりながらも「地道に続けるしかありません」と言う。部員1人の札幌大アメフト部はゴールデンウィーク明けから、北海道医療大と合同練習を始める。社会人に加わって練習の計画もある。

小金主将は「アメフトはいろんなポジションがあり、スポーツ経験がなくても大丈夫。大学生の時しか出来ないスポーツ」とアピールする。そして「1人でもいいので入部してほしい。強いカブスの再生に向けて部の歴史をつないでほしい」と願いを込めた。



ユニホーム姿でグラウンドに立つ小金主将。名門の灯を守ろうと懸命だ。